



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

## 重点課題に取り組み、業界に貢献



平成28年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
先ずは、日頃から我が国の筆記具工業の発展のためにご尽力を賜っております会員各社様、および本工業会にご理解を頂いています業界団体様、ならびに各委員会・部会にご協力いただいている皆様様に深く御礼申し上げます。本年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、第3四半期までの当工業会の統計によりますと主要筆記具の昨年(2015年)の実績(速報)は出荷においては、数量・金額共に約1割増加した模様です。内、輸出は数量・金額共に2桁増加していたようです。昨年は年初から円安傾向で推移したことが輸出に拍車をかけたこともありましょうが、中でも米国景気の拡大と、我が国と同じ漢字文化圏を含むアジアの消費力の高まりが、価値と品質に優れたシャパンブランドを指名くださったためであろうと推定しています。主要筆記具の輸出金額は過去10年、増加基調がつづき、昨年は6割超に達している状況で、輸出立国を標榜する我が国の方針に貢献していると自負しております。

ところで、昨年5月に会長に就任した際、JWIMAの重点課題として、1.商品開発力の強化、2.品質レベルの向上、3.環境と製品安全、この3点を掲げ、本工業会の活動の一層の活性化を提唱したところではございますが、「商品開発力の強化」につきましては、各社から機構や特性に斬新なアイデアと工夫を盛り込んだ新製品が数多く打ち出され、それぞれの商品カテゴリーの価値を高めたようでございます。「品質レベルの向上」につきましては、国内外マーケットの成長力が示すように、顧客満足度を一層向上させる前進があった模様です。また、「環境と製品安全」につきましては、今日のユーザーニーズに即した妥当性のある規格の在り方の協議検討に一定の前進があったようで、本年も引き続き、この分野における国際的なリーダーシップの確立を目指してまいります。

本年もこれらの重点課題に基づき、委員会・部会の活動を一層活性化させ、業界貢献できる成果を得られるよう引き続き努力してまいります。

末筆ですが、本年が文具業界および会員各社におかれまして飛躍の年となりますことを祈念しつつ、本年も日本筆記具工業会に一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年1月

日本筆記具工業会 会長 小川晃弘

## 平成27年度 年末講演会「これからの中国！」

2015.12.7 上野精養軒にて【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を 12 月 7 日上野精養軒にて開催いたしました。参加者は約 80 名。今回は、新聞・テレビで中国問題の辛口のコメンテーターとして有名な石平（せき へい）氏を講師にお招きし、「これからの中国！」についてお話をいただきましたのでご紹介いたします。

### 【講演録】

先日、中国政府が発表した今年の経済成長の数字は 6.9~7%ということでしたが、政府の数字は誰も信じていません。現在の李克強首相が地方行政のトップを務めた時代、統計局の数字は信用できないので自ら電力消費量や鉄道輸送量が伸びているかで経済成長を判断したというエピソードがありました。今年の電力消費量は昨年の 0.8%しか増えていません。1~9 月の経済全体の数字も同じようなものです。対外貿易も輸出、輸入ともマイナスで、国内の生産活動はかなり落ちています。このように中国経済が失速した原因はどこにあるのでしょうか。



2010 年までの約 30 年間、中国は毎年 10%前後の経済成長を続けてきましたが、これは人件費の安さを生かした「対外輸出」と、不動産やインフラ整備などへの「固定資産投資」をずっと 25~30%の高い伸び率で維持させた「二台の馬車」と呼ばれる政府の拡大戦略によるものでした。

この間、「個人消費」は伸びておらず、中国の個人消費率は 37%くらいで異常に低く歪な経済構造となっています。（日本は 60%程度で健全であるが、米国は 70%くらいでこれは少し消費しすぎの傾向にある。）

問題は、永年にわたって固定資産投資の高い伸び率を維持するために、中国政府は莫大な財政出動を行って公共事業を行い、さらに金融緩和によって大量にお金を流通させ、民間の不動産投資や



企業の設備投資を盛んにしたことです。それによってインフレが生じ、物価が上がり、人件費も高騰して行きました。そして、それは貧富の格差拡大も引き起こしたのです。今、中国では民間の富（貯蓄）の 95%を上位 5%の富裕層が所有しており、この貧富の格差が個人消費不足の原因となっているのです。

「投資」も今はほぼ飽和状態になっています。これまで政府が力を入れたのは高速鉄道でしたが、5~6 年かかって 5,000Km くらいになり、当初予定の 50 万人都市はすべてつながることになりました。

不動産物件も作り過ぎで、現在売れ残り住宅が 21 億㎡もあり、不動産は売れなくなっています。鉄鋼の総生産量も年間 23 億トンまで作れるのですが、11.9 億トンまで落ちており、今年はそれでも 5~7 億トン余るのではないかとされています。もう投資はこれ以上無理な状況です。

「輸出」も何故あれだけ伸ばせたかということ、Made in China は安いから売れたので、労働力が安かったからです。本当は中国人も買いたくないと思うほどひどいものが多い。食品は何が入っ



ているかわからないし、薬は飲むと病気になる。

政府はばんばんお札を作りましたのでインフレーションが起こり、以前のように安く作って安く売ることができなくなりました。海外から進出した企業もベトナムやミャンマーの方へ移って行きました。今は、アメリカで作る方が中国よりも安い。高度成長のモデル自体がもう終わったのです。今や実態経済は0～マイナス成長になっています。今後、長い間プラスになることはありません。中国企業は「安い物を作って安く売る」ことに安住してきました。日本企業のように「品質を高めて高く売る」ということを考えなかったのです。5年、10年後のことを考えず、「今売れば良い」というのが多くの中国人の気質です。

2011年は9.8%成長でしたが、この年中国国内で18万件的暴動がありました。経済成長が止まると、失業者が増え、特に貧困層で不満が高まり、暴動へと続きます。貧富の格差が広がったことで、国民の不平不満が高まっています。中国でお金持ちになった人は、悪人が多いと一般庶民は思っています。共産党幹部への不満も同様です。

習近平政権は、その不平不満を減らすため「腐敗の摘発」を行いました。これは国民の不平不満を減らすためでしたが、政敵である江沢民派を排除するための政権闘争の手段でもありました。今、習近平は江沢民派から暗殺計画の対象となっており、そのため9月の抗日戦勝70周年

の軍事パレードの際、通りに面する両側のビルすべてを空にしたのです。

腐敗の摘発を続けると共産党幹部がいなくなりますし、彼等からの反感も一層強くなります。彼等は仕事をすれば賄賂を取りますが、賄賂が取れなくなると仕事をしなくなる(ボイコット)。だからと言って腐敗の摘発をやめれば庶民からの人気も落ちます。いずれにしても将来安泰ではないということです。では、どうすれば良い

か。結局、ロシアのプーチンと同様に対外的に強く出て、国民の意識をそちらに向けさせたのです。一つは南シナ海や東シナ海の島での領有権のゴリ押しで、あと一つは日本との歴史認識問題です。

今年、中国は3つの国家記念日を設けました。3つとも日本との戦争に関するもので、1つは(1937年)7月7日の盧溝橋事件によって抗日戦争が勃発した日で、2つめは(1945年)9月3日で日本が第2次大戦敗戦により当時の中国政府に降伏した日、3つめは(1937年)12月13日で日本軍が南京入城し大虐殺を行ったとする日でした。それぞれ国家的記念日として1週間前から反日キャンペーンが行われており、これからもこれによって年3回は反日教育が行われ続けるのです。日本政府がいくら謝ってもこの記念日は撤回しないでしょう。経済面の関係は今後も続くでしょうが、政治面での日中関係はよくなることは難しい。



日本企業にとって中国は大きな市場であり、うまく付き合っていかなければならないと思うのですが、他に親日的なアジアの国も多くあるので、中国との付き合いはほどほどにするのが良いと

思います。中国との付き合いは深入りすると火傷することになります。

(了)

## JWIMA 年末懇親会

### 年末講演会 第二部 2015.12.7 上野精養軒

講演会に続き、会場を改めて年末懇親会を開催いたしました。来賓に経済産業省日用品室様、(一財)日本文化用品安全試験所様、(一社)全日本文具協会様をお迎えし、また、文具専門紙誌様にもご出席いただき、会場は忘年会にふさわしく華やきました。



ご挨拶 小川晃弘会長

今年の1~9月の筆記具の状況は、前年同期比で10%伸びており、輸出で16%増、国内で3%増となりました。円安効果もありますが、輸出比率は69.4%と過去最高となりました。

今後もジャパンプランドをしっかりと推進していくことが肝要で、その大切な要素が「イノベーション」と「品質」と「安全」です。

ご来賓祝辞

高橋政義 日用品室長



乾杯

石川真一 副会長



中締め

堀口恭男 副会長



# 優良工場見学会 開催

2015.11.17 キューピー富士吉田工場、フジッコワイナリー

11月17日、日本筆記具工業会は日本鉛筆工業協同組合との共催により「優良工場見学会」を開催しました。参加者は16名。今回は山梨県にあるキューピー(株)富士吉田工場とフジッコワイナリー(株)の見学を行いました。

キューピー(株)富士吉田工場では、はじめに家庭用マヨネーズの歴史や成分、商品バリエーションなどの話があり、そのあとビデオを見ながら製造工程の説明がありました。

キューピー(株)の創業は大正8(1919)年で、当時のマヨネーズはガラス瓶に入っており、とても高価なものだったそうです。当初売れ行きはあまり良くなかったそうですが、原料に卵を使っているところから栄養価が高いと評判になり、戦後は学校給食にも取り入れられ広く普及するようになりました。原料は卵黄、油、塩、酢、からしで、油分65%以上のものしかマヨネーズとは呼べないのだとか。ちなみにキューピーのマヨネーズは70%だそうです。最近ではカロリーをカットするため油分の少ないハーフ&ハーフとかもありますが、それらは分類上ドレッシングに入ります。

製造ラインで圧巻だったのは割卵器で、1秒間に10個の卵を割り卵黄だけ選り分けて行くところ



ろでした。富士吉田工場では業務用マヨネーズやおかゆ、ディスペンパック商品を作っている工場なので、割卵器の実物は見られなかったのですが、レトルトのおかゆの製造工程もたいへん興味深いものでした。

おかゆは調理したものをレトルトパックに詰めるのではなく、レトルトパックに計量した原料を投入し封をしてから加熱調理するのです。熱でパックが風船のように膨張するのではないかと心配しましたが、加圧状態で加熱し、そのあと冷却工程を通すので膨らまないとのことでした。

業務用マヨネーズは用途によって味付けが異なり、何十種類もあるそうです。また、業務用で1トンのマヨネーズも見せてもらいましたが、1m立方のポリタンク(パック?)入りで、とてもマヨネーズには見えませんでした。



昼食は、甲州市の勝沼ぶどうの丘で取り、そのあとフジッコワイナリー(株)へと向かいました。

ここはそれほど大きなワイナリーではありませんでしたが、仕込から発酵、瓶詰めまで一つの建物内で行われており、全工程を効率よく見学することができました。

2階のテイastingルームでは、十数種類のワインが自由に試飲でき、気に入ったものをお土産に買って帰ることができるようになっていました。おつまみにフジッコのお豆や昆布でもあればもっと試飲が楽しくて、会社のPRにもなったのにと某氏が少し残念がっておられました。



## 平成 27 年 11～12 月期 委員会・部会活動

＜総務関係＞  
開催なし

＜調査研究・広報 関係＞  
11. 6 調査研究・広報委員会（平成 27 年度 第 2 回）

- ・2016JWIMA 技術交流会の運営及びスケジュールについて
- ・その他

＜流通 関係＞  
開催なし

＜技術国際 関係＞  
11.18 シャープペンシル部会（平成 27 年度 第 4 回）

- ・ISO/WD 20318-1, -2（一般用シャープペンシル及びその芯）について
- ・その他

11.20 製品安全小委員会（平成 27 年度 第 3 回）

- ・安全関連情報について
- ・筆記具安全基準について
- ・その他

12. 3 マーキングペン部会（平成 27 年度 第 2 回）

- ・JIS S 6060（キャップの安全要件）の見直しについて
- ・その他

＜全文協との共催 関係＞

12. 4 知財リーダー会議

## お知らせ

### ●平成 28 年 第 15 回通常総会

第 15 回通常総会の日程が決まりました。  
日時 平成 28 年 5 月 13 日（金）17:00～  
場所 上野精養軒にて  
※今からどうぞご予約ください。

### ●2016 JWIMA 技術交流会

会員同士のビジネス交流を広げるための展示会。4年に一度オリンピックイヤーに開催することになりました。  
日時 平成 28 年 6 月 22 日（水）13:30～  
場所 浅草橋・共和フォーラム（旧 共和会館）

### ●書育推進協議会から解散のご報告

文字を手書きすることの意義を社会に啓発して行こうと、平成 22 年に産学共同で立ち上げた協議会でしたが、思うように会員数を伸ばせず、活動資金難を解消できなかったことから、平成 27 年 12 月 25 日の会員総会にて会の解散を決議いたしました。

皆様にはいろいろご支援いただきながらたいへん申し訳ない結果となりましたことお詫び申し上げます。約 6 年間の活動記録や資料等は、いつでも閲覧可能な状態にし、次へとつなげられるようにさせていただきます。

## 文具類に関する韓国の主要規制 勉強会

2015.11.4 東京文具工業健保会館ホールにて

報告：製品安全小委員会 部会長 塩井恵子

平成27年11月4日に金張 法律事務所の Ms. Yu-Ri YI(薬剤師、弁理士)と Ms. Joo-Hyoung LEE(弁護士)のお二人を講師に迎え、30人あまりの会員が参加して、上記勉強会を開催しました。講師はわざわざ韓国ソウル市から日本に来ていただき、また日帰りするという強行日程でした。

私が部会長を務めている製品安全小委員会では四半期ごとに、製品安全に関する規制の制定・改正についての情報交換を行っています。その会議において、韓国のK-REACHの状況をもっと知りたいという要望が出ていました。さらに韓国の子ども製品安全特別法が平成26年に成立し、平成27年5月からすでに発効していて筆記具にも対応が求められているようだという情報が入り、韓国の規制についての勉強会の開催が早々に必要だと判断して上記のお二人をお願いしたという経緯です。



仕組みですが、その細部は国ごとに異なっていて、2015年1月から韓国でも新規および既存化学物質管理に関する新たな法規制がK-REACHとして施行されるなど、化学物質を取り巻く法規制の制定・改訂の動きは世界中とどまることなく進んでいます。輸出の占める割合が多い筆記具業界では対応に苦慮するところです。

K-REACHは環境部所管、子ども製品安全特別法は産業通商資源部所管という、それぞれ個別の法律を一度に説明していただき、しかも資料は日本語で、講演も日本語でという無理難題を要求したのですが、お二人の講演は見事にそれに応えるものでした。実際に対応するにはまだまだ問題は残っているようですが、今回の講演で骨子が理解できているので、各社の担当者の御苦労も少しは軽減されているのではと思っています。

国連のREACHとGHSシステムは、化学物質を管理し危険性を周知させるという世界共通の

韓国では子ども製品による事故数が他国に比べて多いという状況があり、今までの品行法では十分でないということで、「子ども用製品安全特別法」が制定されました。子ども用製品は、安全認証対象、安全確認対象、供給者適合性確認対象のどれかに分けられますが、主として13歳以下の子ども向けの学用品のうちマーキングペン、鉛筆、シャープペンシルなどは安全確認対象製品に指定されています。



製品安全小委員会では今後もこのような新しい問題に柔軟に対応していきたいと思いますが、会員の皆様からの情報提供が必須です。今後ともご協力をよろしく申し上げます。

以上

## アメリカ貿易統計より 筆記具類の輸入 2014年

金額:1,000US\$

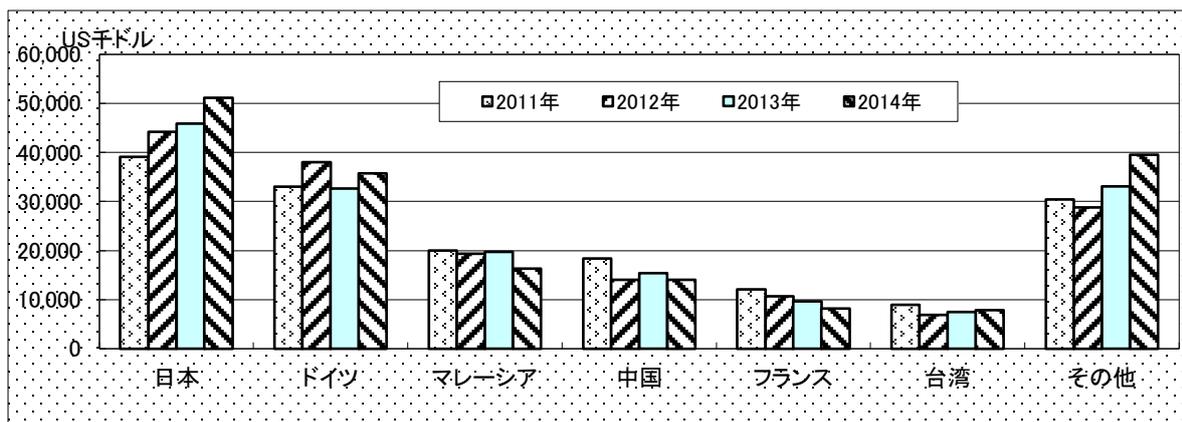
品目	数量	単位	前年比	金額	前年比
ボールペン	3,910,502	千本	0.8%	599,453	1.0%
マーキングペン	1,596,705	千本	0.2%	234,019	11.4%
シャープペンシル	810,140	千本	10.7%	93,864	8.2%
万年筆・製図ペン	9,984	千本	5.8%	29,560	10.3%
上記組合せ商品セットもの	1,982	千本	192.3%	1,797	17.4%
鉛筆	26,356,822	GRS	1.3%	212,154	4.0%
完成品計	—	—	—	1,170,847	4.3%
ボールペン用中しん	402,838	千本	2.8%	16,443	4.2%
ペン先及びニブポイント	1,049,840	千本	24.7%	14,863	9.8%
筆記具の部品及び部分品	—	—	—	53,638	0.0%
鉛筆しん	7,144,658	GRS	4.6%	14,063	-4.2%
クレヨン・パス	—	—	—	108,920	13.1%
その他計	—	—	—	207,927	7.2%
合計	—	—	—	1,378,774	4.7%

2014年のアメリカの筆記具輸入金額は、全体では前年比4.7%の増加であった。品目別に見るとマーキングペンやシャープペンシル、万年筆など10%前後の伸びを示しているのに対し、ボールペンは1%程度でほぼ横ばいだったようだ。どこの国のモノが増えたのか品目別にみると、マーキングペンは中国(+10%)と日本(+12.8%)。シャープペンシルは日本(+22.7%)とメキシコ(+17.3%)。万年筆はドイツ(+34.2%)となっていた。ここ1~2年前の数字と比べるとアメリカの景気は明らかによくなってきており、単価の小さい筆記具の輸入の数字にもそれが表れている。

## 中国貿易統計より 筆記具類の輸出と輸入 2014年

2014年中国の筆記具の輸出金額は2,414百万ドルで、前年に比べて5.7%増加した。品目別ではシャープペンシル(-12.1%)と万年筆(-36.8%)は減ったが、セットもの(+32.7%)と鉛筆(+20.0%)が増えていた。輸入は、173百万ドルで対前年+5.5%と増加した。国別の筆記具類輸入金額のグラフを見ると、日本(+11.4%)とドイツ(+9.6%)からの輸入が大きく増えたのが分かる。日本から増えたのはボールペン(+17.5%)とマーキングペン(+29.9%)で、ドイツから増えたのはボールペン(+5.2%)と万年筆(+17.1%)、鉛筆(+72.6%)であった。中国の景気は衰えたというが、良いものに慣れ親しんだ購買層はもう元に戻れない。ましてや単価もそれほど高くない筆記具においてはなおさらではないだろうか。

中国筆記具類主要国別輸入金額



※上記資料をご希望の方は、JWIMA 事務局までお申し出ください。